



蓬山集 十一



5
1979
10





崑山集

九月九日

芋

秋時白

名木紅紫

蘿

木實

柿



菊

滿紅

紅紫

紅紫

紅紫

紫

紅紫



雅秋

暮秋

鹿山集卷第十一 秋部

九月九日

酌々ひみちのふもやきくの
山のふもとやわづらさけ
下やれも菊酒とそやふも
菊酒とせんめんもあいの
ふさくひの星の菊の花
菊酒の下やとよふの測り

三つがせ美く他家の酒は酒

千代に流るる人も何れも酒

名酒の地酒酒の酒の酒

酒の酒の酒の酒の酒

ふれもわたり酒の酒の酒

百酒の酒の酒の酒の酒

多量の酒の酒の酒の酒

酒の酒の酒の酒の酒

多量の酒の酒の酒の酒

長つと下中もれとせよ酒

外に九味酒の酒の酒の酒

一と酒の酒の酒の酒の酒

くく女もくく造り酒の酒

くく酒の酒の酒の酒の酒

くく酒の酒の酒の酒の酒

くく酒の酒の酒の酒の酒

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

本

酒

酒

酒

酒

酒

酒

酒

酒

酒

酒

酒

酒

菊の酒めえふも目か^{柳子}此花威^喜
 揚をたの菊酒らしむありん^{中村}
 うの菊此酒すけのう^夜か^夜
 九月そそ^夜暖やう^夜菊ひと^夜之菊
 活きれり^夜田方のう^夜ら^夜此^夜花^夜信
 菊^夜あ^夜ら^夜り^夜ま^夜ふ^夜重^夜湯^夜や^夜結^夜たま^夜
 き^夜れ^夜は^夜ひ^夜よ^夜し^夜は^夜ら^夜ふ^夜表^夜上^夜
 菊
 月
 保成
 長
 金
 信元
 法之

われ^夜い^夜ち^夜は^夜あ^夜り^夜き^夜ら^夜も^夜菊^夜草
 物^夜あ^夜い^夜ち^夜ら^夜も^夜た^夜ら^夜し^夜も^夜菊^夜草
 せん^夜あ^夜ら^夜も^夜ら^夜も^夜菊^夜草
 花^夜菊^夜い^夜ち^夜ら^夜も^夜菊^夜草
 その^夜菊^夜の^夜も^夜菊^夜草
 ち^夜の^夜紙^夜め^夜あ^夜ら^夜も^夜菊^夜草
 金^夜銀^夜の^夜菊^夜の^夜菊^夜草
 かり^夜て^夜ら^夜あ^夜ら^夜も^夜菊^夜草
 菊

病拂心こじりも菊は坪の内
子酒せよ輝く菊の花は病
枯くもあきこまは秋草
去感のこころも昔井好子
玉露み痛りら菊は次ちり
ぬき露はこころも菊の淵
輝く菊は秋もさうは輝
かゝるりし日わたをさうは輝

左

みどりそしりやいらん菊は
菊は秋愛とせん之の感外
あゝまこころこきく此情家
心も此の花をみくして菊合
菊一と産歌もかうん白ひ
あゝまこころもさうは輝
産歌もさうの板も菊の淵
輝くらへ退屈原も菊の淵

心儀
定之
春風
月利
未得
規程

七五

花はしてみまわく麻かおらか
 一花とらまわく心辨子
 菊目心あわねく心辨子
 冬とら花や賣炭の辨子
 蝶の居ふ花や賣中此辨子
 復右此辨の辨子の辨子
 姫竹の籬かそふや辨子
 菊我菊もえ眼のほわ辨子

心之
 長成
 好相
 腹明
 正知
 右時
 室意
 月

おまてみまわく又いしあ辨子
 結しりも出んりのふ辨子
 妙子菊ハ菊炭の辨子
 久のくらき射る雪金凡辨子
 西箱の厨縁や杖の辨子
 いけ遊やこり辨子
 八重くの才子のや十六重
 芽の地ぬ穂くさ菊や大繁若

利政
 正勝
 卜燈
 上燈
 政信
 合成
 金成
 重和
 林森

八島やう結蘇も此花の病

三

尾州

稗政

蝶中も草しう結蘇も枝

右

貞利

ふわくに新家打菊やと楊

持

忠政

なや蝶のまゆ富るう金菊

左

如貞

金菊の花のむらや星佛

松山

保友

菊やうけの蝶やいと金虫

存

如貞

鏡中けよまいさむくの菊

本橋

如貞

何れれとらん蝶の菊は花

松山

保友

蝶の文字は星や菊は花

藤

奇昌

蝶も此花の星は林は

松

保友

枝は孫彦の菊の花

藤

奇昌

一也や蝶もやすりる星

下

保友

めら蝶の寝湯や菊は花の病

忠政

ほほやきんさうけうら菊は酒

水

月

長える六洲子此蝶の園の菊

水

之菊

花桐か砂るや菊の酒の糟

水

道長

清り舟は菊入たりと

あはるけ入ふ菊まや花の枝

菊祿寺（菊母）みどり

ささりけやて舟に菊也菊祿

花の枝は葉平の秋菊の花

百子（い）つてふちあふ菊は露

巴乃（代）あそぶのまふや菊

八重菊のちあや九洲（み）の菊

一ちりこる百歳の菊草

櫛の清水のち花より

みく

花散らしもさきり金菊

酒の朋を方らりまきり花菊

草

異心花老くわさひぬこ菊

風しそ痛じは草れこり花

十一

辛抽

良次

花

伊貝

義丸

月

こ

こ

子の子を相積ちる種と云ふ
 山賊母はうとそよま流るる
 堀野は実草のひん葉入外
 芋魁^{カシラ}あつるまゝも納るる
 実賊^{イモ}うらゝ葉あゝ芋魁
 父有少くけあつる子孫
 拙くとも生ふりし芋魁
 子のほまこあつる島の子世
 子の子れとつれを腹も布衣
 子の子る葉入は袋やきぬら
 他りぬれすうは芋魁子徳
 盗じ芋も皆あつる川邊
 可ふ子らと抱子あゝ芋魁
 芋れ子あつれ流るる
 焚は流子よやう親芋魁
 葉の流るる子たの流るる

伊丹 伊丹 池上 柏 大田 沙野 伊丹
 児童 禰政 西酒 壬午 道知 定時 常系 次良
 後考 善育

七九

いかにたまりのこらり未だの年
あつたすまの海か
じつと六作のそらつり日結
忠勝
貞利
長頼

海結

さし結の海くふとくくる海
さしあやみおきかきひら結の結
さしあやみと結さう結あふ元河
海結とくつさう名も鼻鎌
忠勝
貞利
長頼

あを種やあつり深し
さし結のさしつるも判り
安之
長頼

秋時雨

あけら秋の時由やうらあさ
あけら種しやと海の時由
あけら本と深をたやうこ山
大仰をのいらと結り時由

紅葉

時をよそへ、かき次おぼえや朱
筆
さらも山の錦はさも朱實は
山もお終とさうり紅葉は
山の勝乃枝珊瑚樹のあひま
久あそむじおぼえや露あけきん
虫くしきさうらあめあもあま
露のほおの紅葉や二言海
赤くともんあのかはのり

きり雄とて

紅葉あは去あちけりきり雄山
吹ちるあおぼえや風の神はく
りららほろ三葉のこも朱筆
時あてはしとも深あはさし
山のあまのあまやこら深
夕日もあ深氏のあまの樹
目あけくみり紅葉や朱筆

お栗くハおちりうい位約山
在のまうり此本を也村お栗
来と朱ゆるると露れりう水
りみらもいふのうら此お栗
林同の酒乃さうらやとお栗

聖護院の森とて

お栗せり森や七葉大志もうん
もつし此森や赤面志こり此

汗雲のお栗ハ維衣此在摩寺
赤深ハ紅栗衣のりん外
お栗せぬささいも此の錦衣
細布も織のお栗の錦一塚
お栗せぬも八本ありい二四本
紅栗とるん此江色めきと湯衣
お栗ぬ坊^伏物の床や新魚つ
新本や文おせけつこいお栗

尚
季吟
主法

信
最
壽
禁
在
手
巻
粉
塗
位
一
之
之
負
信

高嶺もみぬ出る里林の山 山 廣政

高嶺もみぬ出る里林の山 山 正知

深山らしきものちわけ 山 玄利

高嶺もみぬ出る里林の山 山 海山

高嶺もみぬ出る里林の山 山 元重

高嶺もみぬ出る里林の山 山 存成

高嶺もみぬ出る里林の山 山 月

高嶺もみぬ出る里林の山 山 宗保

高嶺もみぬ出る里林の山 山 俊次

高嶺もみぬ出る里林の山 山 月

高嶺もみぬ出る里林の山 山 宣房

高嶺もみぬ出る里林の山 山 泰成

高嶺もみぬ出る里林の山 山 盛利

高嶺もみぬ出る里林の山 山 定成

高嶺もみぬ出る里林の山 山 加友

高嶺もみぬ出る里林の山 山 芳昌

三三三

お葉は紅の衣の龍田河
威滴も先鬼とせよお葉朽
けさ物もれんてんものも
東福寺通天のお葉と
出葉
改重
定重

ゆりて

鳥籠も通天橋のじりお葉
通天へのわら紅葉はらう
林のまらお葉の森の血
良保
清之
夕霧

すくら木へあをききお葉
紅葉ちらら風や鉄炮つと
まおおへ又あをさの木
あをさういあをさうり焼
あおいさの黄願嶽の林
新門のわらうてんいさ
ながらさきちあへ

花四のりらわさのいお葉
長調此
ち成
一為

花の影もく赤く紅葉狩
 赤くさくさく赤く紅葉の
 新田姫さうりやうと下紅葉
 おもむも宿おむらひの
 山もあふくまふらひ日
 錦さうりさうりお紅葉
 林の錦さうりやうの
 花の影もく赤く紅葉の
 花の影もく赤く紅葉の

お葉の影もく赤く紅葉の
 花の影もく赤く紅葉の

赤くさくさく赤く紅葉の
 新田姫さうりやうと下紅葉
 おもむも宿おむらひの
 山もあふくまふらひ日
 錦さうりさうりお紅葉
 林の錦さうりやうの
 花の影もく赤く紅葉の
 花の影もく赤く紅葉の

紅葉と白くはつらつこの木
も華やかとくはつらつこの木
家とちつたの本も風は楓也
多分やいさつらつはつらつと
ゆけいさつらつ紅葉も教へ向水
葉と紅のみおそしつらつ木は
冬もさつらつ梅深の紅も赤
すは赤きちつらつ梅の紅葉

貞利

左田

梅中

秋

秋

佐田

利政

種宗

五十一

火のらと紅葉もつらつこの木
下らまもいさつらつはつらつと
秋風とつせけ紅梅の紅葉も
紅梅も人も紅もつらつ梅も
見事やいさつらつはつらつと
家も赤くちつらつはつらつと
多分やいさつらつはつらつと
つらつとつらつはつらつと

お葉とて又花とわらさく

長調在

一条少紅粉在と

我と郎とさうなふ梅葉

月

紅粉くはさし年の新也粉也

月

としらもふのくわし粉

月

ふき粉と新也もあわし

月

極の本やさくはら鷄の

月

山姥の紅粉付ゆいあふ

月

多きものくさくらも今も此も

美葉

葉も本も枯れかゝる此も美葉

あなまのくさくらもあまのちも美葉

ちりわらひ百も可れいあも

あなまのくさくらもあまのちも美葉

葉も本も枯れかゝる此も美葉

あなまのくさくらもあまのちも美葉

五十一

知方奇しと

知方ちひ十万億の多葉うふ
 水も梅ういふも葉れあけり
 からの本れ多葉や乞も明るに
 煙もつゝふ葉の多葉やち家池
 鳥うつゝ乞も多葉の多葉や
 ちりも叶も一字も多の多葉や
 いろもあての多葉もあてふ

右 吉野 葉 葉 葉 葉 葉
 忠法 時英 定内 貞利 安野 善次 吉野

あまもう 測 測 つつりの多葉
 多葉教も多葉の多葉や
 花もあすし 飯もあすし多葉

薙

神崎の練の杉葉の葉は
 薙深も松乃風も人來り
 朱鞘も木杵の本油も多葉
 けこね葉も此も木也

川 長

子と揚て望み結わぬ鳥唄
若せしと海の子とて鳥唄
魚の子とて鳥唄わつたら
草花の子とて鳥唄わらば
お雛さまの子とて鳥唄わらば

鳥唄
鳥唄
鳥唄
鳥唄
鳥唄

紅葉附

風波ちらりあつた紅葉
らんらんといふ鳥唄のねら紅葉

蜀江の錦とてわらわら
水々かきぬのさくら
山本もかきぬのさくら
魚も本舟のりたてのさくら

江戸舟本ふきりし時

はなはなとて鳥唄のねら
お雛さまの子とて鳥唄
お雛さまの子とて鳥唄
お雛さまの子とて鳥唄

鳥唄

水の面をてらも家申一紅葉附
 指し落てもなればさくら附
 ふかの海へちるへ紅葉也近江附
 湖やじり一葉本のりから附
 指田とてしとむらとん
 うま源とて紅葉の橋也指田の
 海よりさ一葉もさるも花より附
 水けうら下えただもさくら附
 高保 宅直 好拍
 中村 稔政 貞利 左宣

新多の里も紅葉也附
 勝も紅葉もさるも紅葉附
 ふくも紅葉のいりも紅葉附
 濁酒の源も研わらりから附
 林間もたぐさん新葉も紅葉附
 新田河もさるも紅葉附
 橋瀬もさるも紅葉附
 ならさるも紅葉也
 利次 玄樞 政任 元春 望仙 長龍
 長保 宅直 好拍 稔政 貞利 左宣

散一花の秋成とありこの花

石

貞好

一回宗も此極年と雖

こゝして多くと其のりき

也

秋のいさるは月も無量樹木

任持

秋次

枝葉常へくちるや此こゝの

石

貞利

月ちも先本此實とる様

江

可矣

まんらりどころおれも孫の智

石

貞彦

熊野山とて遊者

悟

由當

櫻程のちえわあか張んり目

徳聖古彦也ありれと

遊トウひと

ありれとこの好ありれとけ

友

貞純

風の聲ありれとけりまりの

地物

わうれとの入る程も程地分

藤山

黄林

木のぬんぬとつらるや推分

落れらわあわのせうあわの
本あふのさうらひ松栢松の
英時

神家うそ梨し松栢と出

さしうらぬ

一物りりやとらうくあわくあふ
後好

縦栢のやわ松栢の淳子貴
後好

淳子ともほらりしとわあま松栢
室室

切らひわつまもやうらん松栢
夕氣

拾ひいきんあまの松栢池田つら
一勇

南天の松栢といらんあまの物
則室

後もいよとすらひあつさゆ日向
政法

寝栢とらむわらにも松栢長
貞長

九年あまの松栢さあみん長
室之

らひさうあまくありは三長
長樂

あまのまゝらんせんま同
同

栗

棠と胡桃と月影みくらと

みくら

大棠ふくらむとつての梅くら

あふふくらむとつての梅くら

つらとつての梅くら

つらとつての梅くら

つらとつての梅くら

つらとつての梅くら

唐巻

三原

空房

梅風

長観

同

同

同

榎

大嶺へつてつとつての梅くら

右とつてつとつての梅くら

つとつてつとつての梅くら

つとつてつとつての梅くら

つとつてつとつての梅くら

つとつてつとつての梅くら

つとつてつとつての梅くら

唐巻

空房

十六

為ふるりやちよ此大匠建禪柳
 然一ぬら柳をあやまきこのぬ
 玉柳母るりとも存さるゆ
 産銀もまていりこの柳の
 朝の書お似合うまわあふ
 二るり此柳のまふわあふ
 人申ふえくまぬ禪の柳か
 人此のあけもるわらこまん

治 良か
草 元与
草 青松
草 易起
草 圓利
草 一葉
草 長鬚
 月

柳柳長生考一と産と
 一とんとせしめつる
 本株とゆして是母教
 句せすのゆとを
 けま
 ひとらけこくそんえん
 又道表おいさあつ南
 柳ち金銀後へありけり

同
 古夫

中東照権印のう前の橋
とて本跡をせられたる

油布柳ハ権印さまのうのき
月

惣ふけいふ前の油布柳
て有いゆ人四布柳さふ

ぬいあらしこし

中し強じかさううも
中子の
中子のゆ子のゆらうの柳のあま
と月

為蘇法平のうあし

為柳乃流さけき湯人

入くとあらしけら

ひえ柳とみえりらさ
柳
あふいし科ああさ
月 月

秋寒

観と力と子足とたふ
岩 森
あふいさあさあさ
浦
月 月

美しきお歌屋のつらさ

定昌

雑帖

型えたるきんぐりやうめきい
肴ちくはかりふるれ満菊池
かんなのほろおもちりやうけ
あまひこのゆらくや結の風の
さたふらわらうとほしき
同風や山やちりふれ風

重勝

と川堤や難波はんより
初燈のさくらお理り満

海成 政信

江戸よりまきくあく花火

鳥居

後坊志ひとあふれ銀や結の海

金丸

立回娘もけさ風のよき年

清之

あまくをたつもの思の結の風

吉丸

中ちりりけりて

川

書法も定家も八月廿九日

十五

月

定家も午のうらひ

生書法下もじまの

年又涉るりも八月廿

七日の山名小倉山

書法乃多能知もを

六くくくくくくく

給ひたれは御再

鑑かたしるさゆと世

母新沙法一ゆら

るれい今教白ゆら

一侍り

枯のゆら金糸ゆらん

月

書法

教師も枯のそそ

きひいあきし果

長調丸

十五



11/11

